似島ホタルの里通信

Vol. 5

発　行：平成23年3月25日
発行者：南区魅力発見委員会
（ニノシマホタルを育てる里人の会）
〒734-8522
南区皆実町一丁目5－44
南区役所区政振興課
電話（082）250－8935
FAX（082）252－7179
E－mail　mi-kusei@city.hiroshima.jp

2010年度最大のニュース配信！

詳細なる調査の結果、似島には2種類のホタルの飛翔が確認できました。

ヘイケボタル
と
ヒメボタル

さて、どっちがどっち？

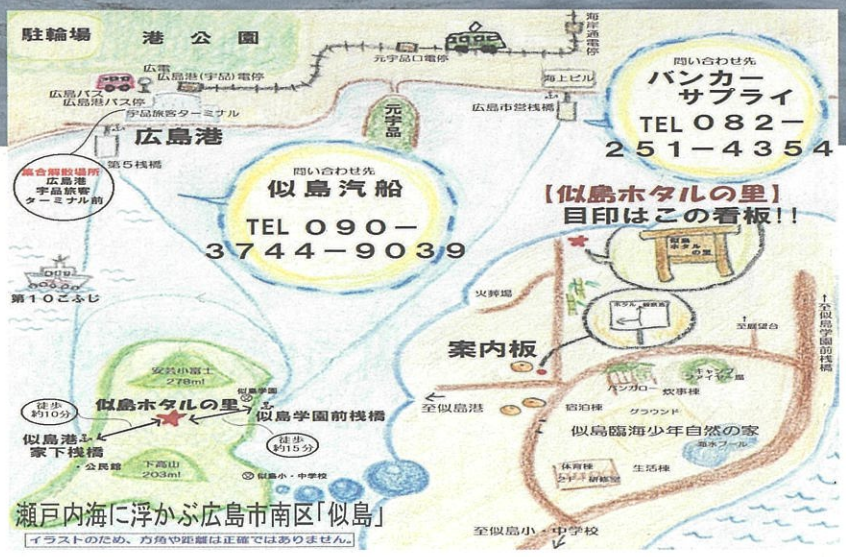
充実した1年でした

ホタルの本で、日本では「ヘイケボタル」は稲作を行う田んぼの環境に適応してきたことを知り、ホタル池を田んぼに戻したくなりました。

でも、ちょっと無理だったので、まずは池の近くに畑を作りました。蛍かごを麦わらで作りたくて、秋の終わりに、麦を蒔きました。

また、会員相互のコミュニケーションが密になってきたことも嬉しく思います。今年は里人同士でカップルも誕生しました。“めでたし、めでたし”

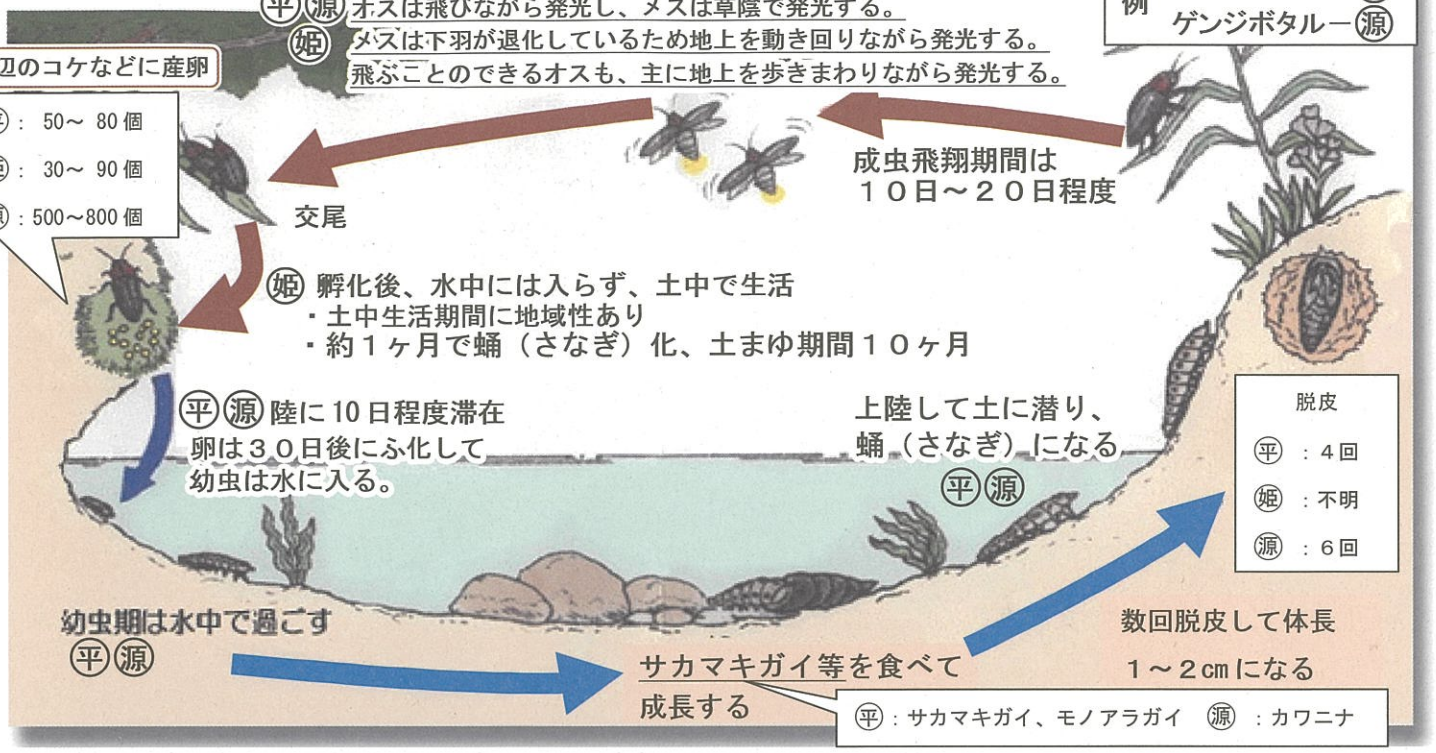
（里人の会・畑委員長　新枝）



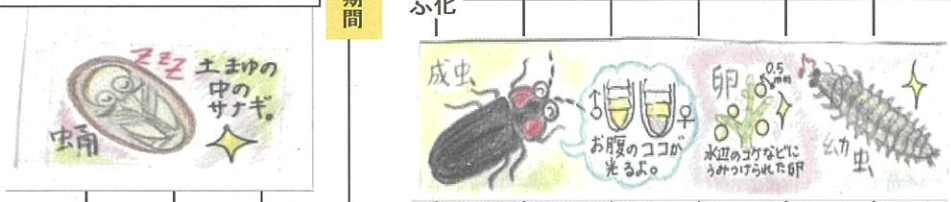
ホタルの生態

凡例
ヘイケボタル－平
ヒメボタル　－姫
ゲンジボタル－源

平源 オスは飛びながら発光し、メスは草陰で発光する。
姫 メスは下羽が退化しているため地上を動き回りながら発光する。
飛ぶことのできるオスも、主に地上を歩きまわりながら発光する。

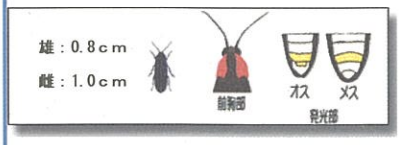
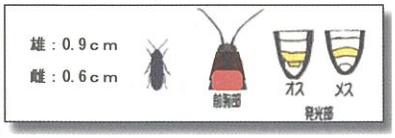
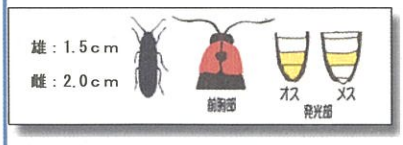


ホタル名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間作業計画
ヒメボタル	土中生活期間（土まゆ）さなぎ・成虫					観賞期間	産卵 ふ化	幼虫　草むら・土中生活期間					2月 環境整備 4月 年間計画等 5月 環境整備 6月 ヒメボタル観賞 7月 ヘイケボタル観賞
ヘイケボタル	水中生活期間			上陸	さなぎ・成虫	観賞期間	産卵 ふ化	幼虫　水中生活期間					9月 環境整備 11月 餌の放流 12−3月 会報編集



田んぼの耕作期間

ホタルの生態はインターネット等で紹介された一般的なものを基に説明しています。

区分	ヘイケボタル	ヒメボタル	ゲンジボタル（似島では生息が確認されていません）
飛翔時間	日没から２時間程度 （場所によっては２１時頃）	２２時から２４時 （場所によっては２０時頃）	日没から２時間程度 （場所によっては２１時頃）
点滅	・光の間隔は１秒に１回程度 ・弱々しい点滅１２０回／分 ・光りは青みがある	・光の間隔は１秒に１．５回程度 ・早く力強い点滅 ・１８０回／分	・光の間隔は２秒に１回程度 ・ゆっくりで力強い ・７０～８０回／分
特徴	 産卵数：５０～８０個 卵の直径：約０．６mmの楕円形 飛翔期間：１０～１４日	 産卵数　３０～９０個 卵の直径：約０．６mmの丸形 飛翔期間：２～７日	 産卵数　５００～８００個 卵の直径：約０．５mmの丸形 飛翔期間：１０～１４日
代表的な餌	サカマキガイ、モノアラガイ	カタツムリ、ミミズ、オカチョウジガイ	カワニナ

ニノシマボタルって何？

日本には40種類以上のホタルが生息しているそうですが、水辺に生息するホタルは「ゲンジボタル」と「ヘイケボタル」と「クメジマボタル」程度。似島に生息するヘイケボタルに付けたブランド名が『ニノシマボタル』です。水田や湿地に棲み、体長は約8～10mm。淡く光る様子はとても風情があります。

2010年度最大のニュース配信！

似島に「新種」を発見しました。

里人の会では、２００４年（平成１６年）からニノシマボタル（ヘイケボタル）の保護活動のため、ホタル池と周辺の環境整備や飛翔観察をしてきました。

しかし、２０１０年（平成２２年）６月５日の観察会で、

① ホタルは竹藪や林の中で目撃され、ホタル池周辺では飛んでいなかった。

② 飛び方、光り方、光の明るさなどがなんだかヘイケボタルの特徴とは違う。

③ 成虫と幼虫が同じ日に見つかった。成虫と幼虫とが同時に観察できるほど、ホタルの飛翔期間は長いのだろうか。

・・・などの疑問が浮かんできました。そこで、捕獲した成虫４匹を広島市昆虫館で鑑定してもらい、ヒメボタルであることが判りました。ヒメボタルは幼虫も水に入らないで育つ陸生のホタルです。山間部でも数種類のホタルが同時に見られる場所はとても少なく、近郊では佐伯区湯来町や廿日市市吉和など、限られた地域でしか見ることができない（らしい）、珍しいホタルです。

会で観察した結果、７月３日にはヘイケボタルの生息も確認することができました。これによって、似島には【ヒメボタル】【ヘイケボタル】という２種類の魅力をＰＲできることになりました。

◇飛翔数

６月　５日	晴れ	１２０匹	７月１７日	晴れ	３０匹以上
７月　３日	曇り	２０匹	７月１８日	晴れ	１０匹
７月　７日	晴れ	２０匹	※６月ヒメボタル、７月ヘイケボタル		

愛称を募集します。

里人の会では、ヘイケボタルをニノシマボタルと名付けて活動をしてきましたが、このたび【新種】が見つかったことから、ヒメボタルの愛称を募集することになりました。

ご応募をお待ちしております。！！

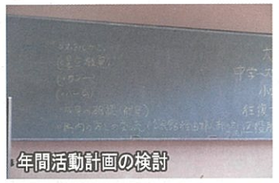
応募期間:平成23年4月1日（金）～5月20日（金）
（当日の消印有効）まで

審査方法:ニノシマボタルを育てる里人の会　会員が選びます。

賞　:特にありませんが、最も優れたネーミングの提案者（お一人）の、ホタル観察会参加時「乗船料」を会で負担します。
（多数の場合は抽選にて決定）

2010年里人の活動日誌

春 4月10日 雑草の刈り取り


年間活動計画の検討

ホタル池の草刈り作業

年間を通して5回程度開催しているホタル池周辺の整備に合わせて、自生している竹を使って「竹樋（たけとい）」を作り、一年中ホタル池に水が溜まるようにしました。

また、不耕作地を「畑地」に開墾し、トウモロコシやジャガイモなどを植え付けました。

9月11日は、里人の会の会員（18名）と似島中学校の先生と生徒さんたち（24名）の総勢42名でホタル池周辺の草刈りや木製看板とイスの防腐処理のためのペンキ塗りもしました。

（乗船する似島汽船のフェリー）

初夏 6月5日～6日 ホタル観察会

撮影できたヒメボタル

ホタル観賞会では、アマチュア天文家の方を招き、星空観察

ある一日の記録

AM9:15 広島港に集合
（9:30 フェリー出航）

AM10:10 少年自然の家に到着
（オリエンテーション）

AM11:00 ホタル池に移動
（除草作業の打ち合わせ）

作業開始～

ホタル池の中の草刈り

PM 1:00 生物を観察
（除草作業の合間の昆虫観察）

PM 2:50 帰る準備
ホタル池で採集したホタルのえさ（サカマキガイ）を持ち帰り、会員で育ててみることにしました

PM 3:10 広島港で解散
（お疲れさまでした）

似島中学生の作業協力

里人代表たちによる作業前の説明会。
真剣な眼差しで作業工程を聞く似島中学校の先生と生徒さんたち

作業風景（１班）
池の雑草を刈り取りました。

作業風景（２班）
竹で樋（とい）を作り、沢から池に入れる水路にしました。
竹の切り出し　→　節抜き　→　設営　→　完成

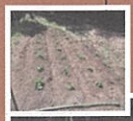
作業風景（３班）
畑と畑の斜面の雑草の抜き取りをしました。

作業風景（４班）
木製テーブルに防腐剤を塗りました。
塗り終えたテーブルと、畑で採れた野菜の一部。濃い色がカボチャ、中央の白いのが冬瓜（とうがん）、小さなジャガイモが２個

作業終了後の記念写真。
若い力って素晴らしい！！
予定した作業工程を無事終えることができました。

畑委員会の活動

4月　5月　6月　7月　8月　9月　10月　11月　1月　2月



荒れ地を耕し、ジャガイモを植付

除草作業

ホタル観賞会

ジャガイモを収穫してカレー作り
その後へ、カボチャとトウモロコシ等の種まき

すくすく生育中の野菜

似島中との共同作業

ホタルかご作り用の小麦を植付

すくすく育つ小麦

ホタルの本を読んで勉強したところ、ヘイケボタルは田んぼの環境に適応して生きてきたホタルだそうです。いま『ホタル池』と呼んでいる場所も、半世紀前までは稲を植えられていたそうです。農業と密接にかかわって生息してきたヘイケボタル。その原点に近づけたら良いなぁという思いで、畑づくりを提案しました。（ただの食いしん坊といううわさもありますが。）私たちの力量で稲作は難しいと断念しましたが、畑作りも十分難しいことが判明したこの一年でした。宮崎さんをはじめ、里人のみんなと一緒に汗を流せる幸せを噛みしめております。感謝、感謝。　畑委員長　新枝

里人のつぶやき

昨年は一度しか参加できませんでしたが、笑顔の中で作業が出来た事を嬉しく思いました。今年は積極的に参加してたくさんの感動を味わいたいです。（渡辺）

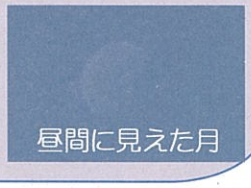
サネカズラ

２００４年からスタートしたニノシマボタルを守る活動で、今年一番びっくりしたのは「ニノシマボタル＝ヘイケボタル」だけだと思いましたが、一緒にヒメボタルも存在していた事です。
いや～、ニノシマって自然がいっぱいなんですね！（矢部）

シャクトリムシ

千葉県から引っ越して1年が過ぎ、広島や瀬戸内の自然も素晴らしいなぁと思いながら参加させていただいています。千葉の鴨川や館山の里山にもホタルの乱舞する場所がありました。この会を通じて他の地域でホタルを育てたり、環境整備している人々とも、どんな取り組みをしているか、情報交換したりする会があったらいいなと思いました。そして、ホタルの里を取り巻く似島の自然をもっと知るために、安芸小富士に登ったりもしてみたいです。（白石）

子どものころ見たホタルの乱舞を見てみたくなりました。いくらかでもお世話したホタルが光を放って乱舞する光景は、少し子育てした気分です。似島の海と山と緑と、ホタルに魅了されています。（森原）



昼間に見えた月

ニノシマボタルを通じて、いろんな人同士が繋がり、今以上に訪れたくなる素敵な島になればいいなと思います！（土谷）

何グモ？

生命の輝きを見る感動を一人でも多くの人に経験してもらいたいと思いました。暗闇にピカリピカリと飛び交う光の乱舞に歓声が上がるたびに、ホタルの育つ場所を整備する大切さも思い出しました。（副島H）

久しぶりに湿地に入り雑草を抜いたり、サカマキガイの卵を持って帰りそれを大きくして、又、湿地に放してニノシマボタルの餌にしたり・・・。少しお手伝いができたことや皆さんにお会いする毎に親しくなれたり、暖かい交じりができて嬉しかったです。畑での作業や収穫できたことの楽しさも喜びでした。（副島T）

ミゾソバ

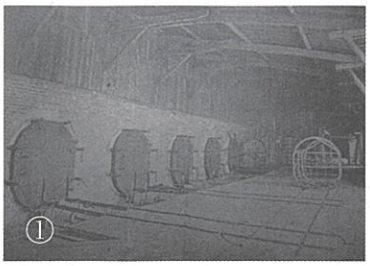
ホタルがちゃんと育っていたことと同じくらい、里人のお二人がめでたくゴールインされたことが2010年の活動の中で嬉しかったです。人の和・環・輪・・・って、やっぱり、いいですねえ・・・　（新枝）

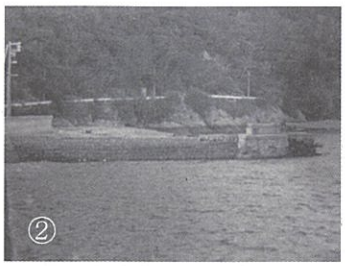
何でしょう？

【 ニノシマの歴史② 】

似島を知るコラム

—ロシア軍俘（捕）虜の検疫と収容 —


①


②

明治２８（1895）年６月、日清戦争から帰還した将兵の検疫所として建設された陸軍似島検疫所は、日露戦争においても数多くの将兵たちの検疫を行いました〔写真①②〕。

大規模な戦闘となった日露戦争は、動員された将兵が日清戦争に比べて格段に多かったため、似島検疫所（現似島学園の場所）のみでは対応できず、急遽、明治３８年、現在の似島臨海少年自然の家の場所に新たな施設を建設しました。この両施設を区別するために、日清戦争時に建設した施設を第一検疫所、新たな施設を第二検疫所と呼びました。

検疫を受けた将兵は、日清戦争が約２３万人、日露戦争が約１２９万人でした。日露戦争時の検疫は、大里（だいり）（門司）、和田岬（神戸）、青森（青森）及び室蘭（北海道）でも行われましたが、過半数の６６．３万人が似島で検疫を受けています。この中には、日本人以外に俘虜となったロシア軍将兵約７．１万人の内、約５．１万人も含まれています。これらの俘虜は、主に宇品停車場から習志野（千葉）、名古屋（愛知）、浜寺（大阪）、松山（愛媛）などの全国各地に開設した俘虜収容所に移送されました。その際、検疫を終えた俘虜の輸送の遅延や収容先との連携の不備などにより俘虜を臨時的に収容する必要が生じ、収容能力３，０００人の俘虜収容所を似島検疫所内に設置したと考えられます。このように、似島は他の収容所とは設置目的を異にしていました。

③

④

明治３８（1905）年１月、旅順陥落・開城により、ロシア軍俘虜〔写真③〕が日本に輸送されることになり、陸軍省は似島俘虜収容所の収容所長に深谷又三郎歩兵大佐（近衛歩兵第二連隊長）〔写真④〕を任命し、似島に派遣しました。

深谷大佐在任中の俘虜収容実績記録の一部を見ると、明治３８年１月末日に２，７４７人、同年３月下旬に７６７人という記録が残されています（第一次収容）。同年４月下旬頃になると収容される俘虜が居なくなり、収容所は実質的な閉鎖状態となりました。

しかし、同年５月２７日の日本海海戦の大勝利によってロシア軍俘虜の検疫業務が実施され、俘虜収容所が再び機能（第二次収容）することになりました。同年６月２０日には２９４人の俘虜を収容しました。

その中には、日本海海戦で負傷したロシア・バルチック艦隊（太平洋艦隊）のロジェストウェンスキー司令長官（中将）から、その後の戦闘指揮を委ねられたロシア第三艦隊司令官のネボガトフ少将も似島で検疫を受け、短期間ながら似島俘虜収容所で過ごしました。

この時の俘虜収容所長には検疫所長であった石丸中佐が任命され、両組織の責任者を兼務していました。同年１０月１日には、陸軍省は臨時陸軍検疫部を設置し、似島の検疫施設を臨時陸軍似島検疫所として日本軍の引き上げ部隊専用の検疫所としました。

その後、似島では６０万人以上にも及ぶ旧満州などから帰還する日本軍将兵などの検疫を行いました。

（注）　写真

①：似島第一検疫所内の高圧蒸気滅菌機関

②：似島学園に現存する日露戦争時の未消毒（上陸用）桟橋

③：旅順近郊のロシア軍俘虜

④：深谷又三郎大佐（俘虜収容所長）

写真・文責　宮﨑　佳都夫

似島臨海少年自然の家

≪自然の家ってどんなところ？≫

自然の家は、小学生や中学生に、さまざまな活動や経験の機会の場を与え、自然に親しませ、自然の中での集団宿泊生活を通じて情操や社会性を豊かにし、心身を鍛練して少年の健全育成を図ることを目的に設立された施設です。

（ただし、小・中学校の野外活動期間を除けば一般の家族、グループも利用できます。）

≪問い合わせ先≫

〒734-0017
広島市南区似島町字東大谷 182 番地
広島市似島臨海少年自然の家
TEL：082-259-2766　　FAX：082-259-2767

会員募集中！

ニノシマボタルを育てる里人の会

一緒に保護活動をしてみませんか？

稀に見る似島の豊かな自然「ヒメボタル・ヘイケボタル」の里

里人の会では、「ホタルを持ち込まない、持ち出さない」をモットーに、似島にひっそりと生息しているホタルを守り育てる活動をしています。これまで、日帰りで、ホタル池の環境整備や自然観察、畑作りをしたり、６月には、似島臨海少年自然の家に泊って、ホタルの観察や、ホタルかご作り、天体観測などを行ってきました。

活動の趣旨にご賛同いただける方であれば、ホタルについての知識がなくても大丈夫です。一緒に汗を流しませんか。老若男女、親子でもお一人でも参加は大歓迎です。住所・氏名・連絡先（電話番号・メールアドレス）をニノシマボタル里人の会（南区役所区政振興課）までご連絡ください。

楽しさはいろいろ

☆参加してみたい方は

まずは、南区区政振興課に参加の申し込みをしてください。

☆会費

不要。ただし、交通費、飲食代、観察会時の宿泊費等は各自実費をご負担ください。

フェリー（片道）大人３８０円、小学生１９０円（２０１１年３月現在）

☆入会資格

活動の趣旨に賛同していただける方であればどなたでもＯＫです。

☆服装

自由です。作業しやすい服装でお越しください。

☆似島に持っていくもの

◎交通費　◎お弁当　◎水筒　◎帽子　◎汚れても良い靴(スニーカーや長靴)

◎軍手　○着替え　○ビニール袋

○その他　草刈鎌や草刈機は用意しています。

各自が必要だと思うものは各自でご持参ください。(おやつ、デジカメ、虫かご、虫眼鏡・・・)

ホタル池の中で見つけたヘイケボタルの幼虫。

見たことあるかな？

里人からのお願い

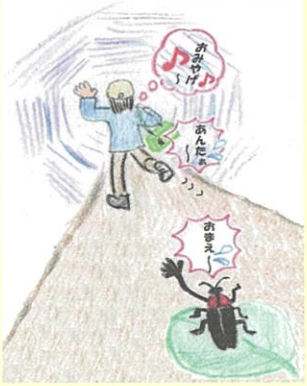
段差や石ころがあることがあります。出来れば明るい間に下見をすることをおススメ!!します。

ホタル観察のときには、長そで長ズボンを着て行ってね！

ホタル池の中には入らないでくださいね。（ホタルのサナギや幼虫などが育っています）

ホタルは光で合図を送って結婚相手を探します。懐中電灯やデジカメの画面・フラッシュはホタルたちの恋路の邪魔です。ホタル観察中は明かりを灯さないでね。

水辺で暮らすホタルには人の手の温度は高すぎるそうです。なるべく触らないであげてね。



ホタルは水辺を離れては生きられません。どうか、観察したあと、おうちに連れて帰ったりしないでくださいね。